

なからぎ

203号

2013年10月

会ってみたい人

文学部長 野口 祐子

女性作家の作品を読んでいると、作者のたくましさや心の屈折に惹かれ、会って話をしてみたいと思うことがある。その中でも最近片思いを募らせているのがイギリスの旅行作家イザベラ・バード (Isabella Bird, 1831-1904) である。彼女は故国に暮らす間は病弱で体のあちこちが痛むのだが、医者か匙を投げて転地療養を言い渡すと、俄然元気になった。それどころか当時のイギリスで享受していた文明的な生活が手に入らない土地で、彼女の冒険心は一気に花開くのだった。牧師の娘であった彼女は恵まれた知的環境に育ち、家族との関係も良好で、ヴィクトリア朝社会が女性に求めた「家庭の天使」的役割を強要されはしなかったようだが、イザベラ、あなたはやはり息苦しさを覚えていたのだろうか？

20代でカナダ・アメリカを独り旅したのを皮切りに、オーストラリア・ニュージーランド・ハワイ諸島・ロッキー山脈・日本・マレー半島・チベット・インド・ペルシャからトルコへ・朝鮮・中国、最後の旅となった1901年のモロッコまで、バードがその土地での体験をもとに発表する旅行記や論文は高い評価を得た。乗馬が得意なバードはハワイ島で初めてメキシコ式の鞍を試す。それまで彼女は人前で股を広げるなど思いもよらず、片鞍で横乗りをしていたため、ひどく疲れるのだった。「キラウエア火山を見たい一心で、私は強く抗う気持ちを抑えて、その鞍に乗るようという勧めに従いました」と言い訳がましいが「当地在住の外国の婦人方もメキシコ式鞍を使っています」と正当化することも忘れない。この跨がる式鞍とトルコ風ズボンのおかげで、この後彼女は日本を含めた世界中の「奥地探検」をこなすことができたのである。

ハワイの大自然を満喫して過ごすこと6ヶ月、あまりに幸せそうな姉の手紙に触発されたのだろう、妹のヘンリエッタが「私もそちらで一年ほど暮らそうかしら」と書いてよこすや、バードはサンフランシスコ行きの船を予約した。イザベラ、その時の気持ちを聞かせてくださいな。それから、東北地方から北海道への難儀な道中、久保田（秋田）を日本的な町だと気に入って「もうヨーロッパ人とは会いたくない、日本の生活をもっとよく知るために、彼らと顔を合わさずに済む奥地へと進まねば」と書いた時の心境も、それから関西に来て西本願寺の飛雲閣で茶の接待を受けながら、赤松連城と教義問答をした時の心境も……と質問攻めにしてしまいそうである。皆さんも『日本奥地紀行』のイザベラと対話しながら、彼女の眼に映じた1878年の日本の山野と人々の姿を追体験してみたいはかがでしよう。

[参考図書]

- O. チェックランド『イザベラ・バード 旅の生涯』川勝貴美訳、日本経済評論社、1995。
イザベラ・バード『イザベラ・バードのハワイ紀行』近藤純夫訳、平凡社、2005。
イザベラ・バード『完訳 日本奥地紀行』全4巻、金坂清則訳注、平凡社、2012-2013。
なおバードの旅行記はケンブリッジ大学他からリプリント版が出版されている。

御紹介の『イザベラ・バード 旅の生涯』（請求記号 289.3 Ⅱ B）、『イザベラ・バードのハワイ紀行』（請求記号 297.609 Ⅱ B）、『完訳 日本奥地紀行』（請求記号 291.09 Ⅱ B Ⅰ～4）は、2階閲覧室入口に配架していますので御利用ください。

ヒトと植物との本当の関係

図書館運営委員 本 杉 日 野

作物や家畜がヒトのために生まれてきたと考えている学生はいないと思うが、かれらはヒトが改良を続けてきたからこそ、ここまで進化したと考えるのが普通なのではないかと思う。本当にそうだろうか、作物や家畜の方が自らの繁栄のために我々を利用してきたのではないのか？ マイケル・ポーランは「欲望の植物誌」(八坂書房、2005)において、自宅の庭にジャガイモを植え付ける場面から、この着想を展開する。庭に植える植物の種類、品種を選ぶことは園主の特権であるが、もしかすると自分はこの種イモに選ばれてその遺伝子を増やす仕事をしているだけかもしれない。顕花植物(視覚的に認知できる花をもつ植物)が出現して以来、花粉を媒介し、種子を散布する昆虫や動物と植物は、複雑・巧妙を極める関係を共進化させてきた。栽培化された植物というのは、植物の側からみれば、その相手をより強力に地球上に生息圏を広げたヒトに乗り換えたサクセスストーリーとして描くことができる。描かれる植物は、ヒトにとって、特にアメリカ人にとって物語性のある4つの植物(リンゴ、チューリップ、タイマ、ジャガイモ)で、それぞれが4つのヒトの欲望(甘さへの欲望、美への欲望、陶酔への欲望、管理への欲望)を象徴する。

第1章(リンゴ)は、双胴船の片方にリンゴの種をぎっしり積んで西部の開拓地に向けてオハイオ川を下る通称ジョニー・アップルシードの航跡を追うところから始まる。当時のアメリカ開拓地では畑に植えたリンゴに実がなると土地の所有権が与えられる法律があり、ブドウが育たない中西部の開拓地でリンゴを植えるもう一つの理由はそこから簡単に自家製シードル(リンゴ酒)が作れることにあったことなど、私にとって、アメリカ人が

リンゴに強くこだわる背景について初めて知ることが多かった。シードルはアメリカに渡ったピューリタン(第4章のアイランドのジャガイモ疫病事件と関わる)たちが日々の悪戦苦闘からしばし解放されて味わう数少ない楽しみであり、そのリンゴは遺伝的に均一な枝を接ぎ木したクローンではなく、个性的かつ強健な実生(種から生えた木)が好まれた。各地につくられた実生の苗畑がリンゴの遺伝的な多様性を開花させ、その中から‘デリシャス’や‘ジョナサン’(紅玉)といった現代に残る画期的な品種を生み出し、一部の遺伝子は明治期に日本に導入され、今や世界に名をはせている‘ふじ’に至っている。

甘さへの欲望に関し、著者は初めてケーキを食べた時の息子の反応について以下のように述べている。【まさしくエクスタシーそのもの、といった感じで我を忘れ、心ここにあらずの状態になってしまった。その味をかみしめる合間合間に私を見上げる目は驚きに満ち、こう訴えかけているようだった——「父さんの世界にはこんな素敵なものがあるの？ 今日から僕は、一生をこれにささげるよ。】。私の娘も1歳の誕生日にケーキを始めて食べた時に全く同じような表情を見せた。甘さへの欲望はヒトのかなり根源的なところにあるように思われる。そして、現在のように砂糖そして甘味料が豊富な時代になるまでは、果実が唯一その欲望を満たす供給源であり、植物は甘味に目のない哺乳類や鳥類にその遺伝子を遠くまで運ばせる。結果としてジョニーはリンゴから託された役割を見事に果たした。

第2章ではチューリップがテーマとなる。その花は均整のとれた単純な構造をもつが、突如としてブレイクし、花卉がねじれ、炎の

ような縞模様をもつ独特の花が出現することがある。まだ、その原因がウイルス病であることを知りようもなかった時代にはブレイクは大変珍重され、17世紀のオランダにおいてこの変わり種チューリップに対する投機的な売買が盛り上がり国民的バブルとなったチューリップ熱とその終焉について語られている。ブレイクしたチューリップも当初は美の象徴として評価されていたものが、やがて所有することのステイタスへの欲望に変わり、ついに投機的な資金が流れ込み、夢と混沌の中に消失した。歴史学上はこれを狂気の時代と学びながら、同様のバブル現象を何度も引き起こしている現代資本主義社会とは何かと考えずにはいられない。しかし著者は、その後のオランダのチューリップ産業の発展から、バブル崩壊はその混沌から新しい資産も残すことを伝えている。

第3章でタイムは意識を変化させることで動物を虜にし、動物を操る植物として描かれている。この植物の有効成分（カンナビノイドと称される）が記憶を調節する脳内物質に類似していることから、その作用の特徴についても様々な学者へのインタビューを通じて表現している。脳内カンナビノイドは、必要でない（場合によって有害な）情報を記憶から排除する作用をもち、このことで精神と記憶を正常に保つことができる。いっぽう、記憶は同じ刺激を再び受けた時に精神を安定に保つ働きをもつが、カンナビノイドを多量に摂取すると過去の記憶が一時的にリセットされ、まるで初めて砂糖をなめた子供のようにすべての刺激が新鮮に知覚される作用を示すと説明されている。脳の機能として「忘れる」ことも重要な要素であることを改めて認識させられ、大変興味深かった。ただ、覚えておきたいと意識したことさえ忘れがちで、新鮮な刺激にも反応が鈍くなった私の脳の状態はこの論とは別問題のようだ。

第4章では農業の工業化、すなわちモノカルチャー（単一栽培）について考察される。そもそも、アイルランドでのジャガイモの成

功と挫折がピューリタンのアメリカ移住を引き起こし、その経験から単一品種栽培の危険性が認識されているのにもかかわらず、近代農業は新しい障害は科学による技術開発で解決するというイタチごっこを繰り返している。近代農業が品質と管理の斉一化を志向し、大面積に単一品種を植え、雑草も昆虫も微生物もことごとく排除するモノカルチャーを基本としていて、モノカルチャー化は農業の根幹となる種苗の供給を管理する大企業を生み出す。遺伝子組換え体農作物を栽培する現在の最先端農業は種苗を供給する企業のマニュアルどおりに管理する工場と化している様がレポートされている。この秩序だった近代農法に対し、多様な品種と同居する生物によって成り立つ混沌とした生態系を基とする有機農法農家もレポートされる。次に遺伝子組換え農産物の安全性について様々な公的機関や研究者へのインタビューの結果、実質同等性（遺伝子組換えのもととなった作物品種と組換え体とは導入した遺伝子とその発現産物以外は何ら違いがない）を完全に証明する手立てはないことが示される。著者は自分の庭でわざわざ開発企業から許可を得て栽培した組換え体ジャガイモを食べることに躊躇しているところでこの物語は終わる。当のアメリカでも「遺伝子組換えである」と堂々と表示して販売される農作物および加工品はないことはどう捉えたらいいのだろうか。表示がされていたら、あなたは買うか？食べるか？ 遺伝子導入も植物が望んだ結末なのか、それとも自然とは全く異なる次元での植物とヒトとの関係が始まったのか？

エピローグの結びは、「自然と人間は、同じ一つの船に乗っているのだ。」で終わる。第1章のジョニー・アップルシードのように。自らも自然の一部であるヒトには自然を完全に管理することは永遠にできないし、自然を失うと自らの生存も不可能になる。

（もとすぎ ひの

：生命環境科学研究科教授）

御紹介の『欲望の植物誌』（請求記号 622 || P）は、2階閲覧室入口に配架していますので御利用ください。

❖❖❖❖❖❖❖ 平成25年度蔵書整理報告 ❖❖❖❖❖❖❖

8月12日(月)～28日(水)の間、附属図書館2階閲覧室を休室して蔵書整理を実施しました。期間中は皆様には大変ご迷惑をおかけしました。

例年全ての箇所を点検対象としていましたが、今年度は一部を次年度廻しにすることで休館期間の短縮を試みました。蔵書整理期間と学内LANスイッチの切換え工事が重なったため、わずか2日間にはなりましたが休館日を短縮することができました。

来年度は今年度より休館日を短縮する予定にしています。

① 蔵書点検…アルバイト学生さんの協力も得て、図書館内の図書(約172,000冊)のバーコードを1冊ずつ読込む作業を行いました。

② 3階書庫資料の移動…受入が増加した分野の棚調整をする必要があったため、今年度も図書の移動が生じました。

休館前と配架場所が異なる箇所が多いので、図書を探す際は必ず書架表示を確認してください。

③ OPAC 所在表示の追加…所在に服飾研究(東書庫Ⅱ)、2F書庫(新館)が新たに加わりました。

服飾研究(東書庫Ⅱ)図書は研究室から移管された図書群で6月から整理が始まったばかりです。ラベルとバーコードが貼られている図書は辞・事典以外は貸出可能です。

(場所は東書庫Ⅱ東側壁部分の書架です。)

2F書庫(新館)は開架書架スペースからあふれてしまった図書を合築棟完成時まで一時的に別置保管させるために新たに設けられました。

これまでスペースの関係で開架書架から抜かれた図書は1F書庫や3F書庫に配架されてきました。そのため皆さんにはエレベータで移動をしていただかなければなりませんでしたが、同じフロアの2F書庫に別置することで少しでも皆さんの移動距離が短縮できればと考えました。

なお、27年度完成予定の総合資料館との合築棟2F府大図書館部分には現在の2F閲覧室内より大幅に増加した図書が配架される予定です。





平成25年度 第1回 図書館運営委員会開催報告

平成25年度第1回の附属図書館運営委員会が7月25日(木)に文学部1階会議室で開催されました。その概要は、次のとおりです。

協議事項

(1) 各ワーキンググループ(WG)の継続とメンバーの確認について

「自己評価・あり方検討WG」、「選書WG」、「電子ジャーナルWG」の3つの枠組みの継続を確認し、各WGのメンバーが決定された。

(2) 平成24年度の決算及び事業報告について

新規図書購入費等の予算が厳しい中で追加予算の配当を受け図書購入を行ったこと、図書館利用統計では貸出総数が過去最高を記録したこと、図書館広報誌の定期発行が不十分であったこと、電子ジャーナルの購読契約について等、状況報告と委員の意見交換が行われた。

(3) 平成25年度予算について

財政状況が厳しい中、学術報告作成費の減額については今後実績見合いで協議予定であること、その他は昨年度とほぼ同額予算の確保ができたこと、また、機関リポジトリ関連予算は計上されなかったが、今後構築に向けての検討の中で協議を行うことで了解済みであること等を説明し承認された。

(4) 学習基本図書の購入リスト提出について

本運営委員会で承認を受けた後、全教員への依頼を行う予定。教員会議への報告を依頼した。

(5) 長期貸出(夏期・春期)冊数の増について

実施について諮り、学生への周知については図書館HPや学内掲示によることとなった。

(6) 機関リポジトリの構築について

現在までの経過・課題と今後の作業予定が説明された。

今年9月提出の博士論文については来年9月までに公開しなければならないこと、そのためには現在未構築の本学機関リポジトリを構築すること、管理運営規則の制定等が必要となっており、WGで検討することとなった。

なお、著作権許諾については、管理運営規則が整い次第得ることとされた。

(7) 新図書館の整備について

① 図書館機能の拡充について

館長より先の機関リポジトリと本図書館機能の拡充については2つの合同WG開催を提案されたがそれぞれ別個にWG検討すべきとの意見を受け、9月に電子ジャーナルWGで「図書館機能の拡充について」、自己評価・あり方WGで「機関リポジトリについて」を検討することとなった。

② 新図書館の管理運営について

前回の運営委員会後、現在までの経過と概要説明、検討方向についての具体的な事務局案の説明を行い、委員からの質問応答を経て、①大学図書館としての機能、②地域貢献・府民貢献、③3大学教養教育への支援、を視点に検討している旨説明し、検討の方向性について事務局案どおり了承された。

館長より管理運営については、今後、より具体的な検討事項も出てくると思われるが、極力その節目には運営委員会に報告していく旨説明があった。

平成25年度 図書館運営委員会

25.7.25 現在

所 属	職 名	委員氏名	所属WG
附属図書館	館長 (文学部教授)	母 利 司 朗	
	教 授	山 崎 福 之	自己評価・あり方検討
文 学 部	講 師	出 口 菜 摘	選書
	教 授	中 純 夫	電子ジャーナル
公共政策学部	教 授	大 鳥 和 夫	自己評価・あり方検討
	講 師	竹 部 晴 美	電子ジャーナル
	教 授	津 崎 哲 雄	選書
生命環境科学 研 究 科	准教授	沼 田 宗 典	選書
	教 授	本 杉 日 野	電子ジャーナル
	准教授	岡 真 優 子	自己評価・あり方検討
	教 授	吉 富 康 成	電子ジャーナル
	准教授	田 淵 敦 士	自己評価・あり方検討
附属図書館	講 師	辻 山 彰 一	選書
	事務長	小 林 秀 子	
	専門幹	久 保 直 弘	

図書館からのお知らせ

「新図書館・文学部・新総合資料館 合築棟 (仮称)」新築工事スタート」

皆さんもお気づきのことと思いますが、いよいよ合築棟の工事が始まりました。完成予定は平成27年12月です。

現在は、本学北泉通の門が工事車両用のゲートになり、新館予定地では埋蔵文化財の保存工事が行われるなど、2年後の完成まで、工事現場の様相は刻々と変化していくことになるでしょう。

附属図書館としても、図書館運営委員会での議論を踏まえた上で、利用者へのさらなるサービス向上に向けて、引き続き大学図書館としての機能を維持・充実させていくための検討を進めているところです。

ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



「2013オープンキャンパス」 ～大勢の人で賑わった図書館～

7月20日(土)・21日(日)の両日オープンキャンパスが開催され、好天に恵まれ、大勢の高校生、保護者の方々と賑わいました。

図書館では両日の午前10時から午後4時まで2階閲覧室を開放し、図書館の蔵書を手にとってご覧いただきました。また校内ツアーで来館された方も多くあり、20日(土)512人(うち高校生339人)、21日(日)967人(うち高校生711人)の合計1,050人(高校生)の方々でにぎわいました。

閲覧室の様子を見て回る方が多い中で、座席で熱心に読書をする方、府大図書コーナーや大型図書に興味を持たれた方、また、校内ツアーでは案内する本学の学生から詳しく説明を受ける様子も多く見受けられました。

今度は本学の学生となって、ゆっくり図書館を訪れてもらえることを願い、サービス向上に努めていきます。

カレンダー

開館時間

9:00～ 21:00	9:00～ 17:00	休館 土日祝 年末年始
----------------	----------------	-------------------

☆閉館時の図書の返却は、図書館西側(喫煙コーナー付近)の返却ポストをご利用ください。

2013年10月							2013年11月							2013年12月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5						1	2	1	2	3	4	5	6	7
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28
27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30	29	30	31				

★10/7(月) 夏休み長期貸出返却日

★12/11(水)～ 冬休み長期貸出開始
返却予定日 1/16(木)

★17時閉館
12/25(水)～27(金)、1/6(月)～8(水)

★年末年始休館 12/28(土)～1/5(日)